

日本ハンセン病社会事業史研究 (第6報)

－希望社地方支部のハンセン病救済運動と十坪住宅の成立－

平 田 勝 政

A Study on History of Social Work for Hansen's Disease Patients in Japan (6)

Katsumasa HIRATA

1. 研究の目的・方法・倫理的配慮

なぜ日本では、ハンセン病患者が国際動向から乖離して90年の長きにわたり隔離を強制され続け、取り返しのつかない過ち(人権侵害・人生被害)を生じさせたのか、その乖離の過程と原因についての歴史的説明はいまだ十分とはいえない。本研究は、日本のハンセン病政策とその社会事業のあり方に決定的な相違をもたらす隔離監禁主義と治療解放(開放)主義に注目して、この2つの考え方の成立・展開と相克の過程を、1920年代に重点を置きながら説明しようとする一連の研究の続報である¹⁾。

本研究は、希望社による隔離主義のハンセン病救済運動(=「救癩」運動)の成立・展開過程に関する筆者の研究成果(拙稿:2010、2013)において不十分さを残している1931年6月25日を中心とする「癩病根絶期成同盟大会」の全国規模での開催状況を地方新聞記事等を手がかりに説明しようとするものである。第5報(拙稿:2013)で記したように、同大会は、「皇太后陛下御誕辰の佳節」(1931.6.25)を期して1道3府39県と台湾・朝鮮で開催され、その開催地は光田健輔によれば「日本全国都市六十三ヶ所」で、「数十万人の賛同を得」たという。この大規模な運動の実証的説明は、同大会以後に展開されていく「癩予防デー」や十坪住宅運動等との関係を明らかにしていく上で重要な意義を有するものである。

なお、すでに「癩」などの表記に見られるように、人権尊重の見地からすると不適切語が使用されているが、以下でも歴史的用語として「癩」等を使用することをお断りしておく。

2. 地方における「癩病根絶期成同盟大会」の開催状況—北海道～中国地方を中心に—

希望社中央本部(後藤静香)は、「希望の日本」第65号(1931.5.1)において「皇太后陛下御誕辰の佳節を期し、全国一斉に癩病根絶運動を徹底す」を發表し、「国辱的疾物に対する根本的解決を得る」ための運動を提起した。その各地における運動の成果を集約したのが、「希望の日本」第68号(1931.8)等に掲載された大会関係記事であり、それを整理したのが第5報の表1・表2である。その表1・2を手がかりに、今回新たに新聞等で確認できたのは、北海道、福島(茨城)、横浜、名古屋、滋賀、京都(追加)、三重、岡山、山口、愛媛、高知、福岡、長崎、宮崎、鹿児島、台湾、朝鮮などである。本稿では紙幅の関係で北海道～中国地方における希望社地方支部(地方聯盟)の運動を末尾の〈資料1〉を手がかりに概観し、岡山での開催が十坪住宅運動の出発点であることを確認する。

(1) 北海道の場合

北海道では、第5報の表1・2によれば、札幌、小樽、函館で開催されているが、確認できるのは、小樽市と函館市である。まず、小樽では、「小樽新聞」が光田健輔のラジオ講演(要旨)を掲載し、さらに「癩予防協会の事業基金に寄附すべく今回全国の各社会事業団体は来る六月二十五日…をトとし一斉に慈善的各種の催しを行う事となった」と報じている。小樽では、希望社は後に退いて、キリスト教婦人会が発起して「慈善音楽舞踊の会」が開催された(資料1のNo.1~3)。また函館では、佐藤在寛(希望社函館市聯盟)が「癩病根絶運動」と題する論説を「函館新聞」と「函館毎日新聞」の両紙に発表して「帝国の面目にかかわる大問題」であることを訴え、函館市民に寄附を呼び掛けた(No.4~6)。

(2) 福島県の場合

福島県では、福島市と会津若松市で確認できる。福島県としては、福島市が中心で、その動向を「福島民報」(1931.6.11)が、「福島県癩病根絶期成同盟愈々実行運動に入る」(No.16)という見出しで、次のように報道している。

「本県の希望社聯盟では今回、皇太后陛下の癩に対する思召しを奉體し癩病の根絶を期するための宣伝及募金運動をなし癩予防協会の事業達成を助くる目的で『福島県癩病根絶期成同盟会』を創立した。而して総裁には川崎知事、会長に県医師会長白石西三氏、副会長に佐藤福島市長、大原市議会議長を推戴し、その他多数の名士を評議員に委嘱し大運動を開始することになった。(中略)目下須子信之氏が各方面に活動して準備中である…福島市の大会を皮切りに気の毒な人々を救済するため県下各所で大会その他の催しをなして得たる収入金を内務省内の癩病予防協会に寄附し癩病根絶の実現を促す訳である。」

福島市における大会は、6月25日に福島市新開座で昼夜二回にわたり「講演と映画の会」を開催することが企画され、6月12日に最初の大会実行委員協議会が開かれ準備を進めた。「福島民報」に掲載された大会当日の企画・内容(No.20より)と当日の様相(No.14の写真より)は、次のとおりである。



「福島県癩病根絶期成同盟」の第一回大会では、「癩病は遺伝に非ず伝染なり而して是が予防の道は明かなり、故に我等は速かに我が国の癩病根絶を期す」との「宣言」がなされ、さらに下記の①②③が「決議」された(第5報の表2の福島県欄の「宣言」とはこのことである)。

- ①「一、我等国民は政府の根絶策を理解し、その遂行を期するために努力すること」

②「二、国立癩療養所を始め公私立の癩病院等に隔離されたる癩患者には出来る限りの同情を表はし安心して治療するの道を講ずること」

③「三、右の遂行を目的とする癩予防協会の事業に対し出来る限り尽力すること」

次に、会津若松市での運動は、「福島民報」(No.18,21)が、「若松癩根絶期成同盟会、廿五日発会式を挙行」との見出しで、次のように報じている。

「若松市の癩病根絶期成同盟会設立に関する発起人会は十三日午後一時より公会堂に於いて開会。出席者は市内各種団体代表者六十余名協議の結果会長に菊池市長代理、副会長に渡部若松医師会長を推し二十五日栄町永楽座に於て発会式を挙行することになった。」

発会式の模様については、「福島民報」(No.21)が、「若松癩病根絶期成同盟会盛況」との見出しで、「若松市癩病根絶期成同盟会主催の講演に童謡、舞踊、映画の会は二十五日午後六時より若松市栄町永楽座に於いて開催したが来会者場に流るるの盛況で十時過ぎ散会した。」と報じている。

(3) 茨城県の場合

茨城県では、注目すべき独自の運動は見られないが、地元新聞「いはらき」の「福島版」に前記の福島市における「癩病根絶期成同盟会」の取組が3回(No.23,24,25参照)にわたり掲載され、福島県の「癩病根絶」運動の報道を通して影響を受けたと言える。

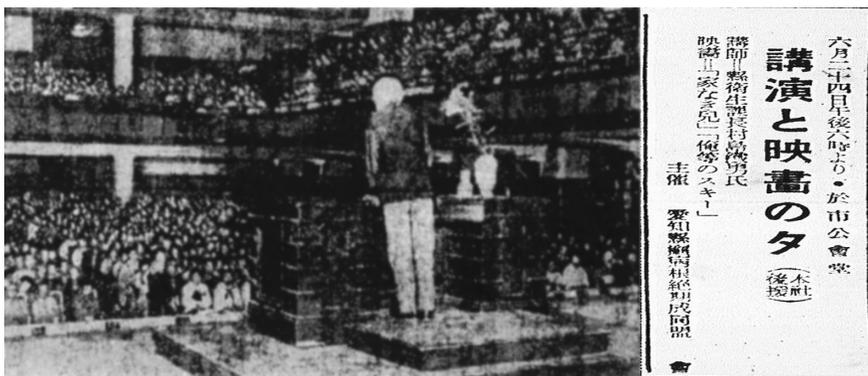
(4) 神奈川県の場合

神奈川県では、横浜市で開催されている。その模様を「横浜貿易新報」(No.32)は、次のように報じている。

「大日本希望社聯盟鶴見支部の懇請により県衛生課主催、神奈川県癩病根絶期成同盟、第四隣保館後援の下に十三日午後七時から隣保館大講堂に於て癩病根絶期成大会」を開催。プログラムは、「一、発楽、二、国家合唱、三、遥拝、四、福田県衛生課長挨拶、五、癩の病理と病型に就て一県江口技手、六、悲惨なる癩者の生活一県佐藤主事、七、映画『黎明』長島愛生園写真、八、癩の予防と根絶に就て一希望社和泉徳哉氏、九、余興アイヌの話一北海道旭川アイヌ青年団長川村才登氏」であった。

(5) 愛知県の場合

愛知県では、「愛知県癩病根絶期成同盟会」が主催で、6月24日(於・名古屋市公会堂、聴衆約2500名)に「講演と映画の夕」が名古屋新聞社の後援で開催されている。名古屋新聞(No.35)は、その模様を次のように報じている。



(6) 三重県の場合

三重県では、『長島開拓』所収の「神都の癩運動」(163頁)が次のように伝えている。

「(伊勢神宮前の)群集の中に女学生が『神都癩予防根絶期成同盟会』と記載したる白襷を掛け、『リーフレット』を頒布し、社会鍋の設けを成し、(中略)今日は六月二十五日 皇太后陛下の御誕生の佳辰であるから、此の日を記念する為め神都希望社に於て宇治山田高等女学校の生徒中の希望社員をして、市内数ヶ所にてこの運動を為さしめ、之れに依りて得たる金は三重県を経て、近く創立さるべき癩予防協会に寄附する計画である。」と。

(7) 滋賀県の場合

滋賀県では、全国一斉大会(1931.6.25)から約一ヶ月遅れて7月26日に大津市で開催されている。「希望の日本」第69号掲載の記事「大津市の癩根絶大会」(第5報の目録No.73)は、次のように伝えている。

「石山寺の貫主鷺尾男爵を会長に戴き滋賀県聯盟は大津市県公会堂に於て、七月二十六日午後六時より癩病根絶寄附募集の『講演と音楽』の会を開催した。当夜は車軸を流す豪雨であったが会衆堂に溢れる盛会、鷺尾男爵、霧島社会課長に次いで大阪外島保養院長村田博士の講演あり、和洋の音楽更に同情を呼ぶ純益金約二百五十円献金さると。」

(8) 京都府の場合

京都府では、本研究の第2報で言及した京都市(1931.6.25開催)以外に同年8月2日に井手町で開催されている。「希望の日本」第69号掲載の記事「井手町の映画の会」(第5報の目録No.74)は、次のように伝えている。

「京都府綴喜郡井手町では同地の各団体を総動員し去る八月二日癩根絶の『講演と映画の会』を催した。会長は平原町長、顧問に宮永警察署長、講師は府の衛生課味岡技師と平林主事、会衆六百余、純益六十一円余を献金す。」

(9) 岡山県の場合

岡山県では、第5報の表1に示したように全国一斉の大会開催に先駆けて1931年6月6日に講演会が開催されている。その開催案内を「山陽新報」(No.37)は、「慈善講演会開催」との小見出しで次のように報じている。

「岡山県婦人慈善会では六月六日午後一時半から岡山市一番町教育会館で慈善講演会を開くが講師は長島愛生園長光田健輔氏で『癩患者の心情とその根絶策』と題する講演である。」



講演会の模様は、翌日(1931.6.7)の「中国民報」(No.38)が「婦人の愛と涙とを求め、長島愛生園慈善講演会」(写真入)との見出しで、次のように伝えている。

「あはれな癩患者のために婦人の愛と涙とを求めたい——かう岡山県慈善婦人会に呼びかけたのは愛生園の園長である光田健輔氏である。六日午後二時から岡山市一番町県教育会館において日本における癩療養の

歴史を説き皇太后陛下の尊き御思召を奉戴し一般国民就中婦人の理解と協力を望み、故中川望氏令嬢が女子大学卒業後癩患者のために看護婦とならうと決意し美はしき心事を追想

し声涙ともに下るものがあり、聴衆を感激させた——なほ岡山慈善婦人会員は近く愛生園を視察し収容者の慰問をなすことに話しが進んでいる（写真は会場、円内光田園長）」この講演会が契機となって十坪住宅第1号（慈岡寮）が誕生するのである（後述）。

(10) 山口県の場合

山口県では、第5報の表1にはない萩町での開催が確認できる。「関門日日新聞」(No.39)は、「萩レプラ根絶期成同盟会、廿五日発会式」との見出しで、「萩署管内に於けるレプラ根絶に関し十七日午後二時より萩町役場に之が協議会を開催した。出席者は萩署係員、萩医師会、萩仏教団、愛国婦人会の各代表者及萩町役場社会課係員。会の発起者で種々協議の結果レプラ根絶期成同盟会発会式を来る二十五日公会堂に挙行する」と報じている。萩町の「レプラ根絶期成同盟会」は、6月25日を期して会則・役員を定め、「萩町癩予防協会」(No.40)となっている。その「会則」は、①「本会は癩病の根絶を期すべく皇太后陛下の御思召を体し設立す」、②「本会は前項の趣旨に依り内務省癩予防協会の事業達成を支援す」、③「寄附金は収支を明らかにし余剰金は県知事を経て内務省癩予防協会に寄附するものとす」などと規定している。地方の「癩病根絶期成同盟会」が、「癩予防協会」の地方支部になっていった事例といえる。

第5報の表1・2では、下関市と山口市での開催が示されているが、山口県の地方紙で確認できるのは山口市での開催(1931.7.5)である(No.41、42、43)。1931.7.1付の「防長新聞」(No.41)は、次のように大会案内をしている。

「山口市大附希望社山口県聯盟内癩病根絶期成同盟会主催の同大会は、来る七月五日午後一時半から山口公会堂で開催され、左の如く講演と音楽舞踊が催されることとなった。県衛生課、市役所、市医師会、市仏教団、メソジスト並に日本基督両教会の後援で、癩病は遺伝に非ず伝染病で患者を隔離せば自然に根絶する事を廣く宣伝する計画である。挨拶：会長白銀市太郎、希望社々長後藤静香（代読）、講演：山口県知事平井三男、山口赤十字病院眼科医長医学博士今井良平、（中略）、会員券は金二十銭で実費を控除した残額は山口県庁を経て内務省癩予防協会に寄附すると」

当日の大会は、「防長新聞」(No.43)によれば、「来会者男女三百余名」で、「会長白銀山口市長の挨拶」、続いて講演は、「知事代理」の警部による「予防協会に就て」や今井氏の「癩雑話」、そして「大会のために来県の国立癩療養所長光田健輔氏の有益なる講演」があった。さらに「大会に対し東京希望社後藤静香氏」より、「人道のため国家のため大会の成功を祈る」との祝電があり、「盛会裡に午後五時頃散会した」とされている。

3. 「癩病根絶期成同盟大会」と十坪住宅運動の成立（小括）

本稿は、紙幅の関係で四国・九州等での開催状況については言及していないが、光田健輔によれば、1931年6月25日を期した全国一斉の「癩病根絶期成同盟大会」により、「癩に対する遺伝の迷信を打破し其の伝染の危険の大なる事を絶叫して数十万人の賛同を得」、その影響として「各府県立癩療養所の入院者激増して定員超過を来」すという結果をもたらした。

上記した定員超過の解決策として、「癩同胞の家」建設が、「希望の日本」第73号(1932.1)において「長島愛生園患者慰安会」（代表者は光田健輔）の名で提唱された。そこには、①「募金金額」は「一棟に付き四百円」、②「一棟建坪」は「十坪」、③「家の名称」は「建築

寄附団体又は個人名を家の名称とし永久に記念し且つ本運動の促進に資す」とある。後に「十坪住宅運動」と呼称される運動は、希望社の「昭和七年度に於ける社会事業部の責務」として開始された。後に、光田は、十坪住宅運動（十坪住宅第1号＝慈岡寮）の起源について、次のように述べている。

「十坪住宅は…昭和六年の六月頃から開始せられた運動であった。当時岡山県の社会教育主事であった田中筆次氏から岡山慈善婦人会にて癩の話をする様にとの事で、当時患者殺到の現状と此れを追放するに忍びない。ヒリッピンにては十坪位のあばら屋をこしらえ収容し六千人の療養所が出来て居るとの話をしたら、幹部の方々から然らば十坪の住宅を拵えるには何円を要するかと云われたので…四百円なら出来ましようかと申上げた。それなら一軒分を此会から差上げましようとの事にて其寄附金を以って造ったのが慈岡寮であります。」²⁾

この「岡山慈善婦人会」における「癩の話」とは、本稿で解明した岡山県における6月6日の講演会である。つまり、希望社が1931年6月25日を期して開催した「癩病根絶期成同盟大会」の口火を切った岡山での慈善講演会が契機となって、十坪住宅運動が誕生していったのである。

〈注〉

1) 筆者のこれまでの研究成果は、下記のとおりである。

- ① 拙稿 (2009a) : 1920年代の台湾におけるハンセン病問題に関する研究「研究論文集—教育系・文系の九州地区国立大学間連携論文集—」第2巻第2号、1～11、2009年3月
- ② 拙稿 (2009b) : 日本ハンセン病社会事業史研究 (第1報) —1922年のディーン博士の来日とその治療解放主義の影響の検討—「長崎大学教育学部紀要—教育科学—」第73号、31～42頁、2009年3月
- ③ 拙稿 (2009c) : 「日本MTL (日本救癩協会) と機関誌『日本MTL (楓の蔭)』」(『近現代日本ハンセン病問題資料集成 (補巻16～19) 解説・総目次・索引』所収) 不二出版、5～17頁、2009年5月
- ④ 拙稿 (2010) : 日本ハンセン病社会事業史研究 (第2報) —民間の隔離主義運動の成立・展開過程の検討—「長崎大学教育学部紀要—教育科学—」第74号、1～15頁、2010年3月
- ⑤ 拙稿 (2011) : 日本ハンセン病社会事業史研究 (第3報) —治療解放主義の系譜 (樂生病院) の検討—「長崎大学教育学部紀要—教育科学—」第75号、25～34頁、2011年3月
- ⑥ 拙稿 (2012) : 日本ハンセン病社会事業史研究 (第4報) —治療解放主義の形成と軽快退所問題の検討—「長崎大学教育学部紀要—教育科学—」第76号、31～41頁、2012年3月
- ⑦ 拙稿 (2013) : 日本ハンセン病社会事業史研究 (第5報) —1920年代における希望社のハンセン病救済運動の検討—「長崎大学教育学部紀要—教育科学—」第77号、35～50頁、2013年3月

※第5報の訂正：49頁の目録No.76の226番(誤)を266番(正)とする。

- 2) 光田健輔：学生生徒の聖業翼賛（十坪住宅の運動・結果）「愛生」第11巻第1号、2頁、1941年1月

〔資料1〕北海道～中国地方の「癩病根絶期成同盟大会」関係資料目録(新聞編)

No.	著者名	記事名	紙名・号数	面	発行年月	備考
1		皇太后様御誕辰の日に慈善音楽と舞踊の催し、小樽の各婦人会が聯合して癩予防協会の事業を援助	「小樽新聞」 第12668号	8面	1931(S.6).6.12	北海道 (小樽)
2	光田 健輔	国民の血液を清むるけふの聖日、皇太后陛下の有難き思召、癩病の予防と根絶を講演	「小樽新聞」 第12680号	6面	1931(S.6).6.25	北海道 (小樽)
3		慈善音楽と舞踊の夕、稲穂女子校に開催 *希望社小樽聯盟主催	「小樽新聞」 第12681号(夕刊)	2面	1931(S.6).6.26	北海道 (小樽)
4		希望社聯盟の癩病根絶運動、函館でも開始	「函館毎日新聞」 第16495号(夕刊)	3面	1931(S.6).6.18	北海道 (函館)
5	佐藤 在寛 (希望社函館市聯盟)	よき日の為に、癩病根絶運動	「函館毎日新聞」 第16501号(夕刊)	3面	1931(S.6).6.24	北海道 (函館)
6	佐藤 在寛	癩病根絶運動	「函館新聞」 第12894号(夕刊)	1面	1931(S.6).6.23	北海道 (函館)
7	中條 資俊	癩問題に就て(上)	「東奥日報」 第13937号	1面	1931(S.6).6.26	青森
8	中條 資俊	癩問題に就て(下) *(上)(下)合わせて「甲田の裾」第8～10号に転載	「東奥日報」 第13938号	1面	1931(S.6).6.27	青森
9		御仁慈に副へ奉る本県癩病根絶期成同盟会創立、廿五日福島市公会堂で発会式	「福島民友新聞」 第11588号(夕刊)	2面	1931(S.6).6.11	福島
10		講演と映画の会、癩病根絶期成同盟会で名映画上映	「福島民友新聞」 第11593号(夕刊)	2面	1931(S.6).6.16	福島
11		組織された癩病根絶期成同盟会役員、二十五日第一声を	「福島民友新聞」 第11594号(夕刊)	2面	1931(S.6).6.17	福島
12		癩病予防期成同盟役員協議 ※若松市	「福島民友新聞」 第11595号	2面	1931(S.6).6.18	福島
13		今日昼夜、講演と映画会、本県癩病根絶期成同盟会で、新開座に開く	「福島民友新聞」 第11602号	3面	1931(S.6).6.25	福島
14		昼夜とも千五百の聴衆、癩病根絶期成同盟会第一回大会【写真入】	「福島民友新聞」 第11604号(夕刊)	2面	1931(S.6).6.27	福島
15		新時代に適した知事の訓示(二)※らい病の予防	「福島民友新聞」 第11607号	2面	1931(S.6).6.30	福島
16		福島県癩病根絶期成同盟、愈々実行運動に入る、廿五日新開座で講演映画会	「福島民報」 第13198号	2面	1931(S.6).6.11	福島
17		癩病根絶期成同盟大会、けふ実行委員協議会	「福島民報」 第13199号	3面	1931(S.6).6.12	福島
18		若松癩病根絶期成同盟会、廿五日発会式を挙行	「福島民報」 第13201号	2面	1931(S.6).6.14	福島
19		癩病根絶期成同盟、愈々第一回大会、二十五日新開座で、当日のプログラム決定	「福島民報」 第13203号	2面	1931(S.6).6.16	福島
20		癩病根絶同盟、けふ第一回大会、昼夜二回新開座で	「福島民報」 第13212号	2面	1931(S.6).6.25	福島
21		若松癩病根絶同盟会盛況	「福島民報」 第13213号	3面	1931(S.6).6.26	福島
22		癩病根絶期成同盟第一回大会、きのふ昼夜二回に亘り盛況裡に終始す【写真入】	「福島民報」 第13214号(夕刊)	2面	1931(S.6).6.27	福島
23		(福島版)皇太后陛下御誕辰を卜し人道的の途へ第一歩、本県癩病根絶期成同盟会発会式、来る廿五日福島市新開座に挙行	「いはらき」 第13175号	6面	1931(S.6).6.18	福島 (茨城)

No.	著者名	記事名	紙名・号数	面	発行年月	備考
24		(福島版) 癩病根絶期成同盟会の講演と映画の買い、二十五日発会式の当夜、福島市新開座に開催	「いはらき」第13176号	6面	1931(S.6).6.19	福島(茨城)
25		(福島版) 癩病根絶期成同盟会大会、福島市新開座に開かる	「いはらき」第13184号	6面	1931(S.6).6.27	福島(茨城)
26	光田 健輔	今日お生れの皇太后陛下が救済の範を垂れさせ給ふ、癩病の予防と根絶 *講演(夜七時半)	「上毛新聞」第14612号	4面	1931(S.6).6.25	群馬
27	光田 健輔	癩病は血統ではない、迷信を破り予防せよ *午後7時半より東京中央放送局よりラジオ放送	「読売新聞」第19519号	10面	1931(S.6).6.25	東京
28	光田 健輔	癩は決して血統病ではない、根絶は国民の努力次第 *講演(午後7時半)【顔写真入】	「都新聞」第15654号	8面	1931(S.6).6.25	東京
29	光田 健輔	癩病の予防と根絶 *午後7時半よりラジオ放送	「国民新聞」第14200号	5面	1931(S.6).6.25	東京
30	光田 健輔	癩病の話、予防と根絶 *午後7時半よりラジオ放送	「萬朝報」第13708号	4面	1931(S.6).6.25	東京
31	光田 健輔	万人の恐れる天刑病は慢性伝染病です、危険此の上も無い癩病患者の遍路、予防と根絶、午後七時半	「二六新報」第5996号	4面	1931(S.6).6.25	東京
32		癩根絶の大会、十三日第四隣館に	「横浜貿易新報」第10932号	4面	1931(S.6).7.10	神奈川(横浜)
33	光田 健輔	癩病の予防と根絶 *午後7時半よりラジオ放送	「静岡新報」第12706号	4面	1931(S.6).6.25	静岡
34	光田 健輔	癩病の予防と根絶	「静岡民友新聞」第13298号	4面	1931(S.6).6.25	静岡
35		癩病根絶同盟の講演と映画の夕 *愛知県癩病根絶期成同盟会主催、1930.6.24	「名古屋新聞」第12668号	5面	1931(S.6).6.25	愛知
36		癩病根絶期成同盟大会、廿五日公会堂	「京都市新聞」第15929号(夕刊)	3面	1931(S.6).6.24	京都
37		慈善講演会開催	「山陽新報」第17381号(夕刊)	1面	1931(S.6).6.6	岡山
38		婦人の愛と涙とを求む、長島愛生園慈善講演会【写真入】	「中国民報」第13421号	2面	1931(S.6).6.7	岡山
39		萩レプラ根絶期成同盟会、廿五日発会式	「関門日日新聞」第16555号	2面	1931(S.6).6.19	山口
40		萩町癩予防協会の会則及役員	「防長新聞」第14646号	3面	1931(S.6).6.25	山口
41		癩病根絶期成同盟大会、五日山口公会堂で	「防長新聞」第14652号	2面	1931(S.6).7.1	山口
42		癩病根絶同盟会講演、五日山口公会堂	「防長新聞」第14656号	3面	1931(S.6).7.5	山口
43		癩病根絶同盟会講演音楽舞踊会、五日山口公会堂で	「防長新聞」第14658号	3面	1931(S.6).7.7	山口

(注) 調査は、国立国会図書館所蔵の地方新聞を基本とするが、地方の図書館・資料館を利用したものには、「いはらき」(茨城県立歴史館所蔵)、「中国民報」(岡山県立記録資料館所蔵)、「関門日日新聞」「防長新聞」(山口県立図書館所蔵)がある。

(付記) 本研究は、社会事業史学会第40回大会(2012年5月12日 於・日本女子大学)において発表した「1920年代のハンセン病問題と社会事業(第7報)―希望社の隔離主義的「救癩」運動の検討―」(『社会事業史学会第40回記念大会報告要旨集』80～81頁と当日配布資料全11頁)の十坪住宅運動関係部分と、日本社会福祉学会第60回秋季大会(2012年10月20日 於・関西学院大学)において発表した「1920年代のハンセン病問題と社会事業(第8報)―希望社地方支部のハンセン病救済運動の検討―」とを合成し、さらに2013年度に補充調査をして、修正・加筆したものであり、2013年度科学研究費補助金(課題番号23530724)による研究成果の一部である。